

くつて、おつかなくつて、仕方がなかつただど。

「早くおやじさんが帰つて来ねーがな。」

と気が気ではなかつただど。

そうこうしているうちに、やつとおやじさんが帰つてきただど。

「いやー。大変お待たせしやした。」

と言つただど。

旅人は、おやじさんがいない間あいだ、気持ち悪かつたことの一部いちぶ始終しじゆうを話したら、おやじさんは、

「おれも急いでいたもんで、おめえさまに黙だまつて行つちまつて申し訳なかつた。」

と言つて、語り始めただど。

「奥の部屋には、まだ小さな娘むすめを寝かせておいただ。枕元まくらもとにお菓子やらみかんやらをおいたので、それを取つて食べてたんだべ。囲炉裏いろりの鉄瓶てつびんの中には女房かがの病気に猿の頭さるのくちを煎せんじて飲きませれば、よく効きくと言われたので人に頼んで、頭を取つてもらつて、それを入つち